

## 平成26～28年度の研究について

### 1 研究主題

生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育学習の在り方  
～ 「わかる・できる・かかわる」を実感させる楽しい授業をめざして ～

### 2 主題設定の理由

#### 【社会の現状】

グローバル化の進展などにより世界全体が急速に変化する中、我が国は、産業空洞化や生産年齢人口の減少など深刻な諸問題を抱えている。特に東日本大震災の発生は、この状況を一層顕在化・加速化させた。日本における「人の絆」や基礎的な知識技能の平均レベルの高さなど様々な「強み」を踏まえ、成熟社会に適合した社会モデルを構築することが求められている。そのような中で決定した2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催決定は、日本中で、これからの体育・スポーツへの関心を高め、期待が高まっている現状である。

#### 【期待される教育の役割】

今後も進展が予想される少子化・高齢化を踏まえ一人一人が生涯にわたって能動的に学び続け、必要とする様々な力を養い、その成果を社会に生かしていくことが可能な生涯学習社会をめざし、社会全体の今後一層の発展を実現する基盤となることが教育の役割である。

#### 【健やかな体の育成に関する現状と課題】

児童・生徒の現代的な健康課題が多様化・深刻化しており、望ましい生活習慣や食習慣を身に付けさせるための指導の充実が喫緊の課題となっている。一方、子どもの体力は、おおむね低下傾向に歯止めが掛かってきているが、昭和60年頃と比較すると、基礎的運動能力は低い状況であり、また、積極的にスポーツをする子どもとそうでない子どもの二極化が顕著に認められていることから、運動習慣が身に付いていない子どもに対する支援の充実が課題である。

本県の児童・生徒の体力・運動能力については、経年比較をみると、過去10年間では、新体力テストのほとんどの項目で上昇傾向を示しており、全国的な課題である中学校女子、高校女子においても向上してきている。今後、生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する基盤を培う授業の一つとしての学校体育の在り方に視点を持つことが課題である。

#### 【主題設定の理由】

このような実態を踏まえ、学習内容を定着させるために「技能」、「態度」、「思考・判断」が相互に密接に関連していることに留意した指導方法の研究を進めることにより、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てることができると考えた。

そこで、本研究における研究主題を「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育学習の在り方」と設定した。

運動の行い方や練習の方法などが“わかる”、できなかったことや合理的な動きが“できる”、仲間や教材・教具などに“かかわる”ことを相互に結び付けさせることで、よい学びのサイクルや実感を生み出し、それが“わかって楽しい”“できて楽しい”“かかわって楽しい”という内発的動機づけとなり、豊かなスポーツライフにつなげることができると考える。

そのために、体系化され明確となった指導内容の確実な定着が図られるよう、各校種や発達の段階の接続を重視した系統的な授業や、指導と評価の一体化を踏まえ一層の指導内容の充実を図った授業の創造と展開を行っていく。

また「技能」「態度」「思考・判断」の内容を児童の側からとらえ、「思考・判断」を“わかる”、「技能」を“できる”、「態度」を“かかわる”と定義し、研究主題の具体的な視点として、サブテーマを「わかる・できる・かかわる」を実感させる楽しい授業をめざして～」と設定した。

### 3 研究の視点

- 運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる学習過程の工夫
- 指導と評価の一体化を推進する評価活動の工夫
- 体力の向上を図るための体育科学学習を含めた教育活動のあり方

#### 4 研究の構想

### 生きる力

生涯にわたって運動やスポーツを豊かに実践していく子どもの育成

#### 体育学習の目指す子ども像

- 各種の運動の楽しさや喜びを味わいながら、技能や体力を身に付けようとする児童（体）
- 自分の学習状況を振り返り、課題の解決に向けて自ら考えたり工夫したりしながら、ねばり強く努力をする児童（心）
- 自分や仲間の力に気付き、運動の行い方を理解しようとする児童（知性）

#### 研 究 主 題

生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育科学学習の在り方  
～ 「わかる・できる・かかわる」を実感させる楽しい授業をめざして ～

#### 研 究 の 視 点

- 運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる学習過程の工夫
- 指導と評価の一体化を推進する評価活動の工夫
- 体力の向上を図るための体育科学学習を含めた教育活動のあり方

#### 5 研究計画

月	内容	備考
5	研究方針検討（主題・設定の理由・構想・計画） 各地区小体連の研究主題等決定	県理事会・研究部会 各地区小体連
6・7	学体研発表大会における研究発表・授業の検討（全体会、部会）	日南・串間地区小体連
8	学体研発表大会小学校部会における日程、分担等検討 学体研発表大会小学校部会の指導案検討・作成	県理事会・専門部会（県研究部会）
9	研究発表準備	該当地区小体連
10	学校体育研究発表大会事前授業研究会1日（木）15日（木） 第56回宮崎県学校体育研究発表大会22日（木）23日（金）	日南・串間地区小体連 全ての体連関係者
12	大会の反省	日南・串間地区小体連
1	研究のまとめ（研究集録提出・作成）	各地区小体連
2	研究の取組の反省、次年度に向けて	県理事会
3	ホームページへのアップ（研究集録）周知徹底・活用	県事務局

○ 第55回九州地区学校体育研究発表大会 長崎大会【10月29日（木）～30日（金）】

○ 第55回全国学校体育研究大会 広島大会【11月12日（木）～13日（金）】

※ 宮崎県：小学校（日向地区小体連）誌上発表